

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470800820	事業の開始年月日	平成16年5月1日	
		指定年月日	平成16年4月1日	
法人名	株式会社 保健科学研究所			
事業所名	グループホーム金沢けやき園			
所在地	( 〒236-0042 )			
	神奈川県横浜市金沢区釜利谷東4-3-26			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	27名	
		ユニット数	3ユニット	
自己評価作成日	平成24年1月15日	評価結果	平成24年3月30日	
		市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは閑静な住宅街にあり、のどかな田畑も見られます。年間行事が充実し、特に夏のバーベキューでは園庭を開放し、炭をおこして料理を振舞い、冬は町内会館を借りてクリスマスパーティーを行います。ご家族も招待し、盛大な2大イベントになります。そのほかにも季節の遠足を組み込んでいます。年々入居者の方々の状態が変化中、皆さんに楽しんでいただくため企画をしています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成24年2月22日	評価機関 評価決定日	平成24年3月24日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

## 【事業所の優れている点】

◇運営推進会議を活用した地域への福祉情報の提供  
 ・地元自治会などの協力で、2か月ごとの運営推進会議開催を実現できた。席上、会議内容についての提案があり、会議の最後に福祉サービスの専門家としての知識を活かし、職員が老人福祉をテーマに情報提供をしている。  
 ◇地域の一員としての生活  
 ・利用者は、季節毎の地域行事に参加し、また、小学生や幼稚園児が来所して歌や影絵、劇などを披露してくれたり、招待を受けて利用者が学校に出かける、近隣の方々が事業所のバーベキュー会へ野菜持参で参加してくれるなど、地域にとけこんだ生活を送っている。

## 【事業所が工夫している点】

◇利用者参加による行事企画立案  
 ・初詣、節分、雛祭り、クリスマスなど年間を通じてた季節感のあふれる行事を企画し、準備段階から利用者にも参加してもらい、一人ひとりの力を存分に発揮してもらいながら行事を行っている。  
 ◇利用者のが楽しみにしている外食を兼ねたドライブ  
 ・毎年出かける遠出ドライブでは、目的地が車いすトイレ対応が可能か、外食店舗の評判、利用者の好みの献立があるかなどの情報を徹底的に集め、利用者本位に検討して食事を楽しんで貰っている。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 金沢けやき園
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらい 3, 利用者の1/3くらい 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は玄関に貼り出し、誰もがみれるようになっている。	・事業所独自の理念、「普通の家 の楽しい家庭生活を地域の人と職員と一緒になって実現…」を8年前の開所時に職員全員で作成し、職員はこの理念をサービス提供の中で常に意識しながらケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏のバーベキュー会と冬のクリスマス会には町内会長、副会長に声を掛け招待している。地域の夏祭りにはお神輿の休憩所として園の駐車場を開放している。	・利用者は、近隣の方から新鮮な野菜の差し入れを頂き、また小学校や幼稚園から定期的な訪問を受けたり小学校行事に招待され、さらに地域の行事に参加したり町内会館を拝借する等、様々な交流を通して地域の一員として暮らしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	釜利谷地域ケアプラザ主催のケアマネジャー研修で新任ケアマネジャー見学会の依頼にお応えした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も規定の6回の運営推進会議を開催できている。行事企画で意見を頂戴し、実践に至っている。	・運営推進会議では2カ月に1度以上の開催を実現させており、構成委員からの提案で、今後は毎回の議題の中に、福祉に関するテーマの講座時間を設け、資料を事業所が準備して講義するような運営を計画している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の後は、市町村に書類を提出し、事業所の運営状況や取組みを市町村に伝えている。又、年に数回認知症実践者研修の受講生を受け入れている。	・金沢区高齢障害支援課に運営推進会議の議事録を送付し、実状を報告している。 ・金沢区はいかい高齢者SOSネットワーク事業の会議に参加して情報交換する等、区担当職員とは、協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜まで施錠せず、開放している。直接、身体拘束も行っていない。内部研修で身体拘束については年2回行っている。	・玄関は日中8時から20時まで開錠し、不審者侵入対策として夜間のみ玄関施錠を行っている。 ・夜間、ベッドより転落危険のある利用者については、寝返り検知センサーによるやさしいメロディ通報など、工夫にて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待に関する研修を行い、広く知識が持てるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を受けている方が実際にいる。定期訪問では立会いもさせてもらっている。事業部での内部研修にも組み込む予定でいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には補足をしながらゆっくり説明し、専門用語は噛み砕いている。数ページの説明ごとに質問を促すようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に事務所カウンターで面会簿を書くようにしているため、確実に家族との会話が生まれるようになっている。その何気ない会話から貴重な意見をもらえことがあり、どのように反映できるかを検討している。	・家族の訪問の際、必ず事務所に声掛けして貰うシステムを取り入れてから、家族との会話の時間が増え、意見要望が得られやすい状況になった。また、行事参加の家族からも意見を聞くようにし、ケアに活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、運営推進会議で意見があれば聞ける機会がある。実現に向けて取り組んでいる。	・管理者は毎朝のミーティングなどで職員意見を把握している。 ・職員の自主性を尊重して、出された提案や意見は職員と検討し、できることから業務に取り入れて、改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材不足時等、職員皆で協力し乗り越えてきた。開所当時の職員もまだ多く在職中である。管理者は働きやすい環境を整備できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業部に必要な研修を管理者には行かせるようにしている。各種マニュアルを整備し、年間内部研修を行い教育に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同グループでの職員、入居者の行き来を行い交流を図っている。また、管理者は月に1回会議を開くことで事例検討や、事故報告検討を行い、各施設のサービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者や介護支援専門員は新しく入居される方への聴き取りを行い、可能な限りの環境を整えた状態で入居をしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や介護支援専門員は新しく入居される方への聴き取りを行い、可能な限りの環境を整えられるように努めている。入居間もなくは、こまめに連絡をし、様子を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面接で十分に情報を提供していただき、管理者及び介護支援専門員は、対応が必要な事項をその場で家族に問うようにしている。「この件に関し、このように対応・・・」といった具合で話しをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護施設に入っているのではなく、入居者の家に自分たちが手伝いに来ているという意識で業務を行うことで一方的な関係にならないように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間行事の中でもクリスマスと納涼祭は家族を招待し盛大に執り行っている。職員と家族だけではなく、家族と家族、入居者と入居者とがコミュニケーションを図れるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時に行きつけだった美容院の利用を送迎により継続していただいている。今後も可能な限り継続していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の電話の利用や取り次ぎ、手紙を書く、投函するなどは職員が支援している。</li> <li>・家族から了解を得た友人の来訪があり、居室へお茶を出すなど、ゆったりと過ごしてもらえるようにしている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、コミュニケーションがとりにくい場合は職員が間に入ることで、関係が円滑になるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居の方は面会したり、退居後にすぐ関係を切らないように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居書類で経歴や、趣味、嗜好を聞き取る欄がある。入居前にはユニットに配布し、それぞれが把握できるようにしている。又、本人及び家族の意向は面接時に伺い、方向性を伝えている。	・利用者の思い、意向は利用開始時の提出書類や面談による把握のほか、全職員は利用者の日々の反応、状況、表情などを克明に観察・記録し、利用者の言葉に表れない訴えを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居書類で過去の生活歴を記載する用紙がある。家族には可能な限り詳細な記入をお願いしている。入居前にはユニットに配布し、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な日課がある中で、ケアプランに沿った様子観察を行い、介護記録に残すことで情報の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議では入居者9人の変化を各担当から報告し、現状把握に努めている。著しい変化や早急な対応が必要な項目については、家族との話し合いを行う機会を持ち、ケアプランに反映させている。	・事業所のケアプラン作成は、原案の段階で利用者及び家族に提示し、その上で介護に対する希望などを勘案し、同意を得ている。カンファレンスには、担当職員、管理者、ケアマネージャーほか、全職員が参加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の重要性は内部研修で行っている。日々の記録は、ケアプランに沿ったもの、又新しい気づきも記載していくように指導している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方であったり、都合の合わない方へは、私物の買い物代行等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事では近隣の店から料理を購入する等、地域資源を利用している。又散歩では近所の公園へ行き、ここでも資源を活用させてもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に往診医について説明し、希望を伺っている。ほとんどの家族が施設往診を希望されるなか、かかりつけ医継続される方も居る。	・事業所は内科、整形外科、歯科と医療契約しているが、本人、家族の希望で、家族の付き添いでかかりつけ医に通院するケースもある。介護の中で容態が急変したりする場合は、契約医による処置で対処するケースもある。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週定期日に訪問看護が入るようになっている。職員はその週にあったことを細かく、看護師に伝え、指示や助言が受けられるようになっている。その情報は往診の際に職員から医師に伝え、情報が共有できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をした入居者には2週間後を目安に医師との面談を申し込むようにしている。可能であれば家族と同席し今後の方針について話を進めていくようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設の重度化指針があり、入居時には家族に内容について説明している。入居中での様子は毎月お便りで報告をしているが、入院等状態変化が著しい場合は、家族との話し合いの機会を持つようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度化した場合は病院に入院してもらう方針であることを、入居時家族に説明して了解を得ている。</li> <li>・今後は、医療と連携してのターミナルケアまでを実施の予定で、利用者の訪問看護契約に加え、職員の研修を検討している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代が要求するターミナルケアについての職員研修などを行い、終末期に対応できる範囲等の検討が望まれます。</li> </ul>
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行っているが、全ての職員が急変時の即座の対応については出来ていない。その際の連絡手順をまとめ、各ユニットに配布し、把握させている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害のマニュアルを定め、備蓄品、食料品を完備した。避難訓練は定期的に行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防署の立ち会いで、夜間想定避難訓練を行っている。限られた夜間勤務職員だけの対応は難しく、近隣在住職員らの一早い駆けつけや、外部の協力が必要であることが実感できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議委員であった前自治会長が地元消防団長に就任しているなど、人脈的には恵まれていますので、今後、地元消防団、自治会との防災協定を締結などが望まれます。</li> </ul>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業部でのマニュアルを定め、入居者と職員の関係を明確にした上で声掛けの際の言葉使いを注意している。	・職員は利用者がお客様であるとともに人生の先輩として尊敬の念を持ち、事業所でまとめた「求められるスタッフ像」10項目に沿って、利用者の誇りやプライバシーを損ねることの無いよう、節度ある対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日会のケーキや遠足の外出先等入居者の希望を伺うようにしている。又更衣において介助が必要な方であっても一方的にならず、選択できるように声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、希望や体調に合わせ、休息を多めに取り入れる等、調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣に介助が必要な方でも、選択できるように声掛けで促している。誕生日や特別な日には、女性職員によるメイクなども行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や下膳は見守りの中、可能な限り、自立していただけるようにしている。危ないからと行動を制限しないよう心がけている。	・食材は業者委託でメニューの変更は難しいが、食事を楽しみにしていることに配慮し、調理法や味付けに変化を付けて対応している。 ・利用者は職員と一緒に食事を楽しんでおり、食後には下膳や食器拭きを手伝っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録して一日の摂取量を把握している。食事は委託会社により栄養管理がしっかりとなされ、カロリー制限の方も管理栄養士に相談することで助言を得られるようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促して口腔内の汚れや臭いが生じないように努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンをつけることで、入居者それぞれを把握している。全ての時間を通して紙製品を使うのではなく、部分的、例えば夜間帯のみといった方法も行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水分・排泄チェック表で各人の排泄パターンを掴み、時間を見計らったり利用者の様子からトイレ誘導し、排泄できるように支援している。</li> <li>・オムツの使用は極力避け、使用する場合も夜間帯のみにするなど自立支援に力を入れている。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	溜まったら下剤ではなく、整腸剤や牛乳を飲むことで普段から便通の良い状態を維持できるように医師に相談したりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	異性に抵抗のある方には同姓の職員を当てる等している。全ての入居者ではないが、入浴回数において希望の回数楽しんでいただいている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴は週2回であるが、自立の人は週3～4回、また夏にはシャワー浴を毎日という希望にも応じている。</li> <li>・お湯の温度や入浴時間の長さは、好みに応じた入浴支援をしている。入浴を好まない方には声かけを工夫して浴室に誘導している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜眠れなくなるからと、昼間の離床を強制せずに、個々の体力に合わせて適宜休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬について、職員個々が把握できるように、配達された薬のセッティングから指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや片づけ、自室の紙モップがけ等、できる範囲で行っていただき、日課となって居る方も居る。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に数回の遠足では、今まで行ったところも含め、入居者に伺ってから行き先を決めている。全ての入居者ではないが、個別の買い物も職員が済ませるのではなく、本人も連れて行くこともある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気が良ければ毎日午前、近くの公園へ散歩に出かけている。車いすの利用者も一緒に、季節や天候によりコースや距離を変え、自然を楽しみ気分転換を図っている。</li> <li>・外食を兼ねた季節ごとのドライブは大きな楽しみになっている。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての入居者ではないが、現金を自己管理とし、付き添いのもと、買い物を支援できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば事務所の電話を使っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、和室には大きな窓があり、日光が入る構造となっている。テーブル配置を工夫し皆さんからテレビが観れるようにしている。廊下には年間行事の写真を掲示し季節を感じていただけるようにカレンダーは手作りのものを貼っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>共有スペースとしてのリビングに和室があり、落ち着いた照明、色調で、会話やテレビを楽しめるくつろぎの空間となっている。</li> <li>廊下の壁面には誕生会、節分、遠足など行事の写真や趣味の作品を飾り、季節感と生活感を出している。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大き目のソファを配置し、気の合う方と座り、テレビを観たり、話ができるような環境が出来ている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には一部持ち物を制限（火気、危険物）しているが、環境変化のダメージを説明し、家具等は基本的に使い慣れたものを配置していただいている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>クローゼットとエアコン付きの居室に、馴染みの家具や思い出の品を持ち込んでもらい、照明器具とカーテンも各人の好みで設置している。</li> <li>壁に家族の写真や自分の作品などを飾り、居心地良く安心して暮らせるよう工夫をしている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりを随所に取り入れ、危険のない構造となっている。居室には名札をつけることで、自室が分かるようにしている。		

事業所名	グループホーム 金沢けやき園
ユニット名	かえで

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらい 3, 利用者の1/3くらい 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は玄関に貼り出し、誰も見れるようになっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏のバーベキュー会と冬のクリスマス会には町内会長、副会長に声を掛け招待している。地域の夏祭りにはお神輿の休憩所として園の駐車場を開放している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	釜利谷地域ケアプラザ主催のケアマネジャー研修で新任ケアマネジャー見学会の依頼にお応えした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も規定の6回の運営推進会議を開催できている。行事企画で意見を頂戴し、実践に至っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の後は、市町村に書類を提出し、事業所の運営状況や取組みを市町村に伝えている。又、年に数回認知症実践者研修の受講生を受け入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての内部研修やアンケートを実施したりしているため、禁止行為については把握している。入居者の状況等で、玄関施錠を行う場合がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待に関する研修を行い、広く知識が持てるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を受けている方が実際にいる。定期訪問では立会いもさせてもらっている。事業部での内部研修にも組み込む予定でいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には補足をしながらゆっくり説明し、専門用語は噛み砕いている。数ページの説明ごとに質問を促すようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に事務所カウンターで面会簿を書くようにしているため、確実に家族との会話が生まれるようになっている。その何気ない会話から貴重な意見をもらえることがあり、どのように反映できるかを検討している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、運営推進会議で意見があれば聞ける機会がある。実現に向けて取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材不足時等、職員皆で協力し乗り越えてきた。開所当時の職員もまだ多く在職中である。管理者は働きやすい環境を整備できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業部に必要な研修を管理者には行かせるようにしている。各種マニュアルを整備し、年間内部研修を行い教育に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同グループでの職員、入居者の行き来を行い交流を図っている。また、管理者は月に1回会議を開くことで事例検討や、事故報告検討を行い、各施設のサービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者や介護支援専門員は新しく入居される方への聴き取りを行い、可能な限りの環境を整えた状態で入居をしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や介護支援専門員は新しく入居される方への聴き取りを行い、可能な限りの環境を整えられるように努めている。入居間もなくは、こまめに連絡をし、様子を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面接で十分に情報を提供していただき、管理者及び介護支援専門員は、対応が必要な事項をその場で家族に問うようにしている。「この件に関し、このように対応していく」といった具合で話しをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事や買い物、季節感を味わえる遠足など、共に生活することで安心して話ができる関係が築けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は毎月手、家族にお便りを書いて近況を報告している。面会や、行司でも口頭報告で情報を共有できるような関係ができ、今後も維持していきけるように努める。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時に行きつけだった美容院の利用を送迎により継続していただいている。今後も可能な限り継続していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することが無いように、座席の配置を工夫し、食事やお茶の時間には職員が間に入ることで入居者同士の関係が維持できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居の方は面会したり、退居後にすぐ関係を切らないように努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居書類で経歴や、趣味、嗜好を聞き取る欄がある。入居前にはユニットに配布し、それぞれが把握できるようにしている。又、本人及び家族の意向は面接時に伺い、方向性を伝えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話や行動、また入居書類等での把握により、今までの生活環境に添えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向を踏まえ、無理強いをしない一日を過ごしていただけるように努めている。定時のバイタル確認や体重測定で身体状況も把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議では入居者9人の変化を各担当から報告し、現状把握に努めている。著しい変化や早急な対応が必要な項目については、家族との話し合いを行う機会を持ち、ケアプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の記載、引継ぎで情報を共有し、毎月のユニット会議で、担当より各入居者についての報告を聞きケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方であったり、都合の合わない方へは、私物の買い物代行等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事では近隣の店から料理を購入する等、地域資源を利用している。又散歩では近所の公園へ行き、ここでも資源を活用させてもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、整形外科、歯科の往診があるが、本人や家族の希望により、かかりつけ医の受診を継続していただいている。入居時に選択をしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との医療連携を結んでおり、毎週の訪問を受けている。訪問時には一週間の情報を報告している。又24時間連絡体制があり、緊急時の指示を受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活状況や経過についての情報提供を行い、又往診時には入院中のようにすがきけるようになっている。2週間を目安に医師と家族で面談の機会を持ち、早期の退院が出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設の重度化指針があり、入居時には家族に内容について説明している。入居中での様子は毎月お便りで報告をしているが、入院等状態変化が著しい場合は、家族との話し合いの機会を持つようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを整備しており、応急的な手当てが出来る。また年間定期訓練にて、救急隊からの講習も受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害のマニュアルを定め、備蓄品、食料品を完備した。避難訓練は定期的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を人生の先輩と捕らえ、態度や言葉は気をつけて接するようにし、又指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を心がけ、努めている。可能な限りの自己決定をそれぞれの場面でできるように声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを大切にし、入浴、散歩、レクリエーションの希望を聞き、取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを把握し、季節に合った服装が出来るように、アドバイスをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは見守りの中、可能な限り行っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックし記録に残している。状況に合わせた形態での食事を提供できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けをしていただきながら毎食後に口腔ケアを行っている。介助が必要な方には義歯を洗浄する等、手伝いをし、清潔の保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行うことでパターンの把握に努めている。定時誘導ではなく、パターンや希望に添った随時誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて便秘を把握し、乳製品等で自然排便が出来るように努めている。医師に相談し、下剤の処方を受けている人もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の基本的な順番は決まっているが、気分や体調にあわせ前後することで希望に添った入浴が出来る。又入浴を好まない方にも、家族と相談して声の掛け方の助言をいただき、実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には天日干しを行い、リネン類も洗濯して気持ちよく眠っていただけるようにしている。又夜寝れなくなるからと、無理に起こさずに適宜、休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれが服用している薬を把握している。又臨時薬や処方の変更された時には申し送りノートに記載、口頭にて間違いがないように徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の生活に楽しさや喜びを感じ、充実していただけるように、食事の片付けや花の水やりといった日課、役割を持ていただけるよう、カンファレンスを行ったり、本人と話したりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通じ定期的に遠足を取り入れている。又散歩を毎日行い近所の公園まで出掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて所持していただいている。又買い物の付き添いを行い、支払いをしていただいたりしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば事務所の電話をご利用いただいている。また、手紙の投函やその代行も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は常に清潔を心がけ、リビングは毎食後モップがけをしている。又手作りカレンダーや、季節行事の写真を掲示することで彩っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはそれぞれの席を決めているが、使用していない時等はそれにこだわる事無く座っていただいている。又和室にはソファもあり気分に合わせ、それぞれの時間も大切にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には一部持ち物を制限（火気、危険物）しているが、環境変化のダメージを説明し、家具等は基本的に使い慣れたものを配置していただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりを随所に取り入れ、危険のない構造となっている。居室には名札をつけることで、自室が分かるようにしている。		

事業所名	グループホーム 金沢けやき園
ユニット名	つばき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらい 3, 利用者の1/3くらい 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は玄関に貼り出し、誰も見れるようになっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏のバーベキュー会と冬のクリスマス会には町内会長、副会長に声を掛け招待している。地域の夏祭りにはお神輿の休憩所として園の駐車場を開放している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	釜利谷地域ケアプラザ主催のケアマネジャー研修で新任ケアマネジャー見学会の依頼にお応えした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も規定の6回の運営推進会議を開催できている。行事企画で意見を頂戴し、実践に至っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の後は、市町村に書類を提出し、事業所の運営状況や取組みを市町村に伝えている。又、年に数回認知症実践者研修の受講生を受け入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜まで施錠せず、開放している。直接、身体拘束も行っていない。内部研修で身体拘束については年2回行い、車椅子の使用時やベッド柵の設置の仕方にも職員たちは気を配っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待に関する研修を行い、虐待にあたる行為を根絶すると共に、虐待に関するペーパー試験を課す等の防止策を講じている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を受けている方が実際にいる。定期訪問では立会いもさせてもらっている。事業部での内部研修にも組み込む予定でいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には補足をしながらゆっくり説明し、専門用語は噛み砕いている。数ページの説明ごとに質問を促すようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に事務所カウンターで面会簿を書くようにしているため、確実に家族との会話が生まれるようになっている。その何気ない会話から貴重な意見をもらえることがあり、どのように反映できるかを検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、運営推進会議で意見があれば聞ける機会がある。実現に向けて取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材不足時等、職員皆で協力し乗り越えてきた。開所当時の職員もまだ多く在職中である。管理者は働きやすい環境を整備できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業部に必要な研修を管理者には行かせるようにしている。各種マニュアルを整備し、年間内部研修を行い教育に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同グループでの職員、入居者の行き来を行い交流を図っている。また、管理者は月に1回会議を開くことで事例検討や、事故報告検討を行い、各施設のサービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者や介護支援専門員は新しく入居される方への聴き取りを行い、可能な限りの環境を整えた状態で入居をしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や介護支援専門員は新しく入居される方への聴き取りを行い、可能な限りの環境を整えられるように努めている。入居間もなくは、こまめに連絡をし、様子を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面接で十分に情報を提供していただき、管理者及び介護支援専門員は、対応が必要な事項をその場で家族に問うようにしている。「この件に関し、このように対応していく」といった具合で話しをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の立場に立っての介護、又感情を共有することによって理解を深めるよう努めているが難しい面もある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	極力、入居者の様子を家族にお知らせするようにし、又ご家族から要望を最大限、ケアに活かせるように、口頭、申し送りノートにて伝達後、ユニット会議の場で検討をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時に行きつけだった美容院の利用を送迎により継続していただいている。今後も可能な限り継続していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、食事やおやつ等の時間等、入居者がお互いのコミュニケーションを保てる場を確保すると共に、摩擦が起きないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居の方は面会したり、退居後にすぐ関係を切らないように努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の希望に沿った形での暮らし方が望ましく、意向に添うように努めてはいるが、難しい場面もある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居書類にて、生活歴、生活環境の把握にユニット全員で努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録等の徹底により、ユニット全員で取り組み、情報の把握が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議を通じ、職員個々が入居者に対する良い介護が出来るように話し合っている。介護計画のモニタリングや1ヶ月の様子を振り返り、確認する時間をとっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、介護記録に記録すると共に、申し送り等で伝達し情報共有に努めている。ヒヤリハットの提出も増え、事故報告書は3ユニット回覧するようにし、ホーム全体の情報の共有も図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方であったり、都合の合わない方へは、私物の買い物代行等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事では近隣の店から料理を購入する等、地域資源を利用している。又散歩では近所の公園へ行き、ここでも資源を活用させてもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、整形外科、歯科の往診があるが、本人や家族の希望により、かかりつけ医の受診を継続していただいている。入居時に選択をしていただいている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期の往診、訪問看護の際に様子や状態の変化を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活状況や経過についての情報提供を行い、又往診時には入院中の様子がきけるようになっている。2週間を目安に医師と家族で面談の機会を持ち、早期の退院が出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設の重度化指針があり、入居時には家族に内容について説明している。入居中での様子は毎月お便りで報告をしているが、入院等状態変化が著しい場合は、家族との話し合いの機会を持つようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生、急変時の対応については消防署、救急車へ連絡手順は確立されている。又防災訓練にて人形を使っての訓練を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害については全ての職員が危機意識を持っていると共に、避難方法について共有意識を有している。地域との協力体制は今後の課題の一つでもある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全ての職員は入居者の人格の尊重、プライバシー確保に対して十分な配慮を常に業務の中で実践している。又内部研修でも課題として取り上げている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定は最大限尊重している。例えば遠足の外出先等。難しい面もあるが、今後も継続していきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを大切にし、入浴、散歩、レクリエーションの希望を聞き、取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	下着、上着共に清潔を第一に行っているが、外出時には希望も取り入れ選択し、着替えていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じ可能な限り、食器拭きや配膳、下膳を行って頂いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じ、食べる量については調整し、摂取量の記録もしている。食材は委託のためカロリー管理が出来ている。カロリー制限が必要な方は、委託会社の管理栄養士に相談することで助言を得られる環境が整っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持については、毎食後の声掛けにて入居者の皆さんに行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行うことでパターンの把握に努めている。定時誘導ではなく、パターンや希望に添った随時誘導を行うことでオムツの使用は極力避け、トイレでの排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便についての注意は、職員個々がしているが、水分を多く摂取するよう働きかけを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	こちらの都合で曜日を変更してしまうことがあったが、週に2回以上入浴を楽しんでいただけるように調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠、休息については強制的な睡眠は避け、入居者の状況に応じ、テレビを観て過ごしたりしている。十分安眠、休息が取れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット会議において、入居者の服薬について、効用、副作用等において取り上げ、職員間で認識を一致させた。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや作業分担を通じ入居者の適正、生活歴を活用していただいている。又気分転換になっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は希望の全てを受け入れているということはないが、散歩は悪天候以外は毎日行い、近所の公園に行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持、使用については現在は出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は希望があれば出来ている。今後も継続していく。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は常に清潔を心がけ、リビングは毎食後モップがけをしている。又手作りカレンダーや、季節行事の写真を掲示することで彩っている。入居者の声を聞きながら、今後も改善、継続していく。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	不十分な部分は、今後も居心地のよい空間作りを心がけ、継続していく。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の趣味や以前使われていたものを居室内に配置する等の工夫はしているが、不十分な部分は入居者の声を聞きながら、今後も改善、継続していく。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は入居者の使いやすいようにつかつ、転倒等の危険が無いような物品の配置を心がけている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名

金沢けやき園

作成日

H24年 3月 30日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	近隣の住民が参加したかたちでの夜間避難訓練が未実施である。	平成24年度は2回の地域住民を交えて避難訓練を実施する。協定書のようなものは困難かもしれないが、住民参加訓練報告遺書をもって協力体制をアピールしたい。	2月に行ったものは、消防署の日程変更のため 蘇生、消火訓練で終わってしまった。6月に運営推進会議で報告が出来るように5月に実施する。	2ヶ月間
2	4	平成23年度の運営推進会議は2ヶ月に1回の開催ができた。しかしながらその内容には各テーマの設定はなく、報告だけで終わってしまう回もあった。	平成24年度は各回にテーマを決めて実のある内容で定期開催を目指す。	グループ内の他のホームの年間計画を参考にし、けやき園の年間計画を作成、配布までは出来ている。	12ヶ月間
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。